

2018

シラバス〔基礎領域〕

佐久大学別科助産専攻

【基礎領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
助産学概論	901	前期	必修	1単位 15時間	講義	火1 水1

担当教員（○印＝科目責任教員）
○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）

オフィスアワー／連絡先と連絡方法
研究室（5号館3階301）在室時に調整する。

授業の概要
助産学のコア科目として位置づけ、助産の概念と意義、職業としての助産師の身分と発展、助産師のアイデンティティの形成、母子保健と助産及び助産師教育の変遷と現状、助産師と倫理、助産学を構成する理論、助産学研究の意義と方法論等を理解させ、助産師の役割と責任について認識させる。

到達目標
 1. 助産の意義概念について説明できる。
 2. 職業としての助産師の定義と業務、身分と発展について説明できる。
 3. 助産及び助産師教育の変遷と現状を理解し助産師活動を説明できる。
 4. 助産学を構成する理論と研究について説明できる。
 5. 助産師として倫理を踏まえて自己の看護観について説明できる。

当該授業科目と他の授業科目との関連
他の授業科目との関係性を学び、自分なりに助産師像をイメージする。

授業計画			
回数	授業内容	授業方法	担当教員
1	助産の概念	講義	湯本
2	リプロダクティブヘルス／ライツと助産	講義	湯本
3	助産師の定義と業務	講義	湯本
4	助産師と職業倫理	講義	湯本
5	母子保健の歴史と諸制度	講義	湯本
6	助産の歴史と文化、助産師の身分と発展	講義	湯本
7	助産学を構成する理論と助産学における研究	講義	湯本
8	助産師と教育	講義	湯本

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 指定したテキストは熟読する。
 復習を怠らない。
 テキスト内の専門用語の意味を理解する。
 テキスト内の関係法規を理解し覚える。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
 テキスト：助産学講座1．基礎助産学〔1〕助産学概論、医学書院
 参考文献：授業内で適宜紹介する。

成績評価の方法・基準
筆記試験（90％） 授業参加状況（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績により面談指導し、返却する。
担当教員からのメッセージ
助産師像を自分の中で整理し、学びを深めてほしい。 体調を整えて、授業時間を大切な学びの場とする。 必要な法律は覚える。

【基礎領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
生殖の基礎科学	902	前期	必修	2単位 30時間	講義	火4, 火5 金4, 金5
担当教員（○印＝科目責任教員） ○木村 薫（KIMURA, Koru）、大久保早苗（OOKUBO, Sanae）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要 生殖器の形態・機能的特性、遺伝と遺伝疾患、性の分化と発達、胎児・胎盤機能、母子と免疫、母子と栄養など、助産学の基礎になる科学について理解させる。						
到達目標 1. 生殖の形態・機能的特性について理解できる。 2. 遺伝と遺伝疾患、性の分化と発達、胎児・胎盤機能について説明できる。 3. 母子と免疫、母子と栄養について説明できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連 生殖の基礎科学の授業内容に沿い、周産期に関わる学びを深める。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	性の分化と発達：男女性器の発達過程			講義	木村	
2	生殖にかかわる形態的特性：男女性器の形態・機能、産道の構造・正常			講義	木村	
3	生殖にかかわる形態的特性：男女性器の形態・機能、産道の構造・異常			講義	木村	
4	間脳・下垂体機能と卵巣機能			講義	木村	
5	妊娠の生理：妊娠の成立と維持（不妊症・不育症を含む）			講義	木村	
6	妊娠の生理：妊娠による母体の変化			講義	木村	
7	妊卵の初期の発育（胎芽期まで）と胎盤形成			講義	木村	
8	妊娠経過に伴う胎盤の発育・機能と異常			講義	木村	
9	遺伝と遺伝疾患（1）			講義	木村	
10	遺伝と遺伝疾患（2）			講義	木村	
11	母子と免疫			講義	木村	
12	母子と薬剤			講義	木村	
13	母子と栄養（1）			講義	大久保	
14	母子と栄養（2）			講義	大久保	
15	まとめ			講義	木村	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 母性領域における基礎知識は解剖生理も含め復習し、授業に臨むこと。 指定したテキストの予習・復習を習慣づけていくこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：助産学講座2. 基礎助産学〔2〕母子の基礎科学、医学書院 助産学講座3. 基礎助産学〔3〕母子の健康科学、医学書院 助産学講座6. 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期、医学書院 参考文献：荒木勤著「最新産科学 正常編・異常編」、文光堂
成績評価の方法・基準
筆記試験（100％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
コメントを記し、学びに役立つ返却をする。
担当教員からのメッセージ
授業の進行は、学習進度に伴い変更があります。 助産学の基礎知識であり、実践するにあたり、身につけておかなくてはならない科目です。 事前学習・復習は必要です。

【基礎領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
生命科学と倫理	903	前期	必修	1単位 15時間	講義	水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○盛岡正博（MORIOKA, Masahiro）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。 執務室（5号館1階理事室）の扉が開いている際は、随時相談を受け付ける。						
授業の概要						
生命の尊厳と人間尊重の精神を理解する。生命に関する倫理原則を具体的な例を検討しながら、ともに学ぶ。文化や社会環境による多様な価値観の違いや考え方の相違を受け止めながら、医療に携わる専門職としての行動基盤を築く機会とする。						
到達目標						
1. 思索すること、悩むことの大切さを修得する。 2. 他者の表現することの理解に努め、共感し寄り添うことの意味を知る。 3. 専門職として学ぶ自覚と他者との関係性の大切さを理解する。						
当該授業科目と他の授業科目との関連						
助産師は2つの命を預かることから時代を超えた倫理観を養う必要がある。よって、他科目の全てにおいて関連する。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	はじめに～生命倫理の歴史的背景	講義	盛岡			
2	生命誕生と医学の介入～生殖活動を補助すること	〃	〃			
3	生命をめぐる倫理（1）	〃	〃			
4	生命をめぐる倫理（2）	〃	〃			
5	クローン技術と生命倫理の課題	〃	〃			
6	母体保護法における倫理～望まない妊娠と胎児	〃	〃			
7	死の定義と臓器移植	〃	〃			
8	訪問診療の現場から（特別講義）	〃	特別講師			
9	患者の権利とインフォームド・コンセント	〃	盛岡			
10	生と死のケア～緩和ケアとターミナルケア	〃	〃			
11	安楽死をめぐる問題	〃	〃			
12	寿命と不治の病を考える	〃	〃			
13	がんを生きるということ	〃	〃			
14	認知症における生命倫理を考える	〃	〃			
15	地球環境と生命倫理	〃	〃			
※本授業は、看護学部1年次開講科目「生命倫理」と合同で行う。 全15回の授業のうち1～8回を必須とするが、可能な限り全て受講すること。						

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 テキスト及び講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習すること。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト：塩野寛・清水恵子「生命倫理への招待」、南山堂 参考文献：授業内で適宜紹介します。
成績評価の方法・基準 1. 授業参加状況 60％ ①授業参加状況を成績評価に反映させます。 ②毎回出席カード（リアクションペーパー）の提出を求めます。 2. レポート課題 40％ 授業内で最終課題を課します。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ・リアクションペーパーに対して、個別または全体にコミュニケーションを図ることに努める。 ・レポートに対して、できる限りコメントを付けて返却する。
担当教員からのメッセージ 覚えるための学習ではありません。人間として「考え」「理解し」「感じ」「共感し」「支援する」など、これから看護の専門職としての基本を共に学び合いたいと思います。

【基礎領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
ウイメンズヘルス	904	前期	必修	2単位 30時間	講義	火2, 火4 火5, 水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○竹内良美（TAKUUCHI, Yoshimi）、柴田眞理子（SHIBATA, Mariko）、木村 薫（KIMURA, Kaoru）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後、教室で質問を受ける。						
授業の概要						
ウイメンズヘルスの概念や援助技術の基本、ウイメンズヘルスの特性、女性のライフサイクル各期におけるウイメンズヘルスの内容と技術等について理解し、助産機能の柱をなすウイメンズヘルス技術を実践できる基礎能力を養う。						
到達目標						
1. ウイメンズヘルスの概念を述べることができる。 2. 女性の健康の決定要因について説明できる。 3. 女性のライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と健康問題を説明できる。 4. リプロダクティブヘルス/ライツにおける家族計画の意義を述べることができる。 5. 性の健康について説明できる。 6. 各種受胎調節の理論と方法を説明できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連						
・生殖の基礎科学をベースとしているので、卵巣機能と間脳・下垂体機能の理解は不可欠である。 ・思春期教育論、不妊症と不妊ケア、妊娠期の診断とケア、産褥期の診断とケアにおける援助技術を考えるものとなる。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション、ウイメンズヘルスの概念	講義	竹内			
2	リプロダクティブヘルス/ライツの概念、性差医療	講義	竹内			
3	助産活動を支える理論・技術について	講義	竹内			
4	助産技術（相談・指導・教育）の実際	講義	竹内			
5	女性の健康と環境（嗜好品・労働・DV等）	GW／講義	竹内			
6	女性のライフサイクル各期の特徴（思春期・成熟期・更年期・老年期）	GW／講義	竹内			
7	女性のライフサイクル各期の特徴（思春期・成熟期・更年期・老年期）	GW／講義	竹内			
8	家族計画の意義と法律	講義	柴田			
9	各種受胎調節の理論と方法	講義	柴田			
10	対象に合わせた受胎調節指導	GW	柴田			
11	対象に合わせた受胎調節指導	GW	柴田			
12	受胎調節指導のプレゼンテーション	GW	柴田			
13	ライフサイクル各期における健康問題（乳房・子宮・卵巣の病気）	講義	木村			
14	ライフサイクル各期における健康問題（更年期障害等）	講義	木村			
15	まとめ	講義	竹内			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 授業内容のテキストを読み、専門用語や法律などの基礎知識を確認して臨んでください。（45分） 準備学習課題を出します。課題は授業内で指示します。 授業終了後には、知識の整理を行い、考えを深めてください。（45分）
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト：助産学講座2 基礎助産学〔2〕母子の基礎科学 医学書院 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院 受胎調節指導用テキスト 日本家族計画協会（2016） 参 考 書：家族計画指導の実際 第2版増補版 医学書院（2017）
成績評価の方法・基準 準備学習課題 30% GWレポート 30% 筆記試験 40%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 準備学習課題は内容確認後に返却する。 筆記試験は返却しない。
担当教員からのメッセージ 助産師の業務はマタニティケアと同時に女性の一生の健康を支援するものです。女性の健康向上とQOLの向上をめざす助産援助技術を思考できるようになってほしいと思います。 同時に受胎調節実地指導員として活躍するための知識や態度を学ぶための科目でもあります。対象にあった指導ができるよう、常に学ぶ姿勢を忘れないでください。

【基礎領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
母子の心理・社会学	905	前期	必修	1単位 15時間	講義	火3
担当教員（○印＝科目責任教員） ○柴田眞理子（SHIBATA, Mariko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 ・授業終了後、教室で質問を受ける。 ・随時、メール（m-shibata●saku.ac.jp）で質問を受ける。						
授業の概要 母性の心の動きを理解する基礎となる女性の心理的・社会的発達と特性を学び、妊産褥婦の心理的・社会的特性、ハイリスク妊産褥婦の心理的・社会的特性および夫の心理的・社会的特性を理解し、周産期にある女性及び夫に対してへの支援を考察できる基礎的能力を養う。						
到達目標 1. 女性の心の発達過程を学び、影響する要因を調整する方法を説明できる。 2. 周産期における女性の母親になる過程を課題を学び、役割獲得への支援ができるようになる。 3. ハイリスク妊産褥婦の心理について学び、受容過程への支援を述べるができる。 4. 妊産婦をパートナーに持つ男性の心理について学び、父親役割獲得過程への支援を述べるができる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連 ・「助産学概論」の対象論を基礎として、その中の女性をより深く学ぶものである。 ・「妊娠期の診断とケア」、「分娩期の診断とケア」、「産褥期の診断とケア」、「周産期ハイリスクケア論」における助産診断とケアを行う先の根拠を提供する科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション 課題文献の検索と文献選択			講義	柴田	
2	母性の概念と構成要因としての母性意識とは何かについて学ぶ。			講義	柴田	
3	文献検索と発表資料作成			GW	柴田	
4	女性の心の発達1：出生から思春期（講義）、関連文献の発表とディスカッション			講義／GW	柴田	
5	女性の心の発達2：妊娠期の女性（講義）、関連文献の発表とディスカッション			講義／GW	柴田	
6	女性の心の発達3：分娩期の女性（講義）、関連文献の発表とディスカッション			講義／GW	柴田	
7	女性の心の発達4：産褥期の女性（講義）、関連文献の発表とディスカッション			講義／GW	柴田	
8	男性の心の発達：父親役割獲得（講義）、関連文献の発表とディスカッション			講義／GW	柴田	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・授業内容にあたる教科書の項目を読んでくる。（授業の初めにキーワードの説明を求める。講義終了時に再度理解度を確認する） 約45分 ・文献を精読し疑問点を整理しデスカッションに臨めるよう紙面に準備する。 約60分						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
テキスト ・助産学講座4 母子の心理・社会学 医学書院 参 考 書 ・母性論 ルバ・ルービン 医学書院 ・女性の心の成熟 玉谷直美 創元社 ・父親の誕生 マーチン・グリーンバーグ メディカ出版	
成績評価の方法・基準	
・文献まとめレポート ・筆記試験（毎回の小試験） ・グループ討議への参加度	40％ 40％ 20％
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
・提出レポート：評価後コメントし、返却する。 ・筆記試験：試験終了後、解説を行う。試験問題の返却はしない。	
担当教員からのメッセージ	
女性の心のありようがライフサイクルとともに大きく変化する過程を把握でき、目の前の対象に寄り添える助産師になってください。同時に自己の心のありようも客観的に俯瞰できたらいいなと思います。	

2018

シラバス〔実践領域〕

佐久大学別科助産専攻

【実践領域】

授業科目名	授業科目 コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
妊娠期の診断とケア	911	前期	必修	1単位 30時間	演習	月1, 月2 火4, 水3 木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、柴田眞理子（SHIBATA, Mariko）、湯本敦子（YUMOTO, Atuko）、 上原明子（UEHARA, Akiko）、木村 薫（KIMURA, Kaoru）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後、教室で質問を受ける。						
授業の概要						
妊婦の健康状態及び妊娠経過に関わる助産診断、妊婦の援助技術、妊娠期の異常と異常経過における妊婦のケアにつ いて理解させ、妊婦に対して適切な助産診断と援助技術を実践できる基礎的能力を養う。						
到達目標						
1. 助産診断学・助産技術学の概要を理解し説明できる。 2. 妊娠期の助産過程の展開ができる。 1) 妊娠期の助産過程に必要な基礎的知識を理解し説明できる。 2) 妊娠期の助産過程に必要な情報項目について説明できる。 3) 妊娠期の助産診断に必要な情報を収集するための助産技術について理解し説明できる。 4) 妊娠期の助産過程において、正常経過とその逸脱について、分析・解釈・統合し診断を考察することができる。 5) 妊娠期の助産過程において、診断に基づき、計画・立案することができる。 3. 妊娠各期に必要な助産技術を、根拠に基づき事例を用いて実施できる。 4. 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠の医学的管理について理解し説明できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連						
基礎領域全科目、分娩期の診断とケア、産褥期の診断とケア、医療診断と医療処置、乳幼児ケア論、 周産期ハイリスクケア論、親子関係発達とケア、母乳育児支援、地域母子保健論、助産管理、不妊症と不妊ケア						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	助産診断・助産技術学の概要	講義	竹内			
2	妊娠の生理と妊娠期の心理的・社会的変化	講義	竹内			
3	妊娠期の助産診断の特徴	講義	竹内			
4	妊娠期のフィジカルアセスメント	講義	竹内			
5	妊娠期のフィジカルアセスメント	講義	竹内			
6	事例を用いた助産過程の展開	GW	竹内			
7	事例を用いた助産過程の展開	GW	竹内			
8	事例を用いた助産過程の展開	GW	竹内			
9	事例を用いた助産過程の展開	GW	竹内			
10	妊娠期における健康教育の企画	GW	竹内			
11	妊娠期における健康教育の企画	GW	竹内			
12	妊娠期における健康教育の演習	演習	竹内			
13	妊娠期の助産技術の演習	演習	竹内・柴田・湯本・上原			
14	妊娠期の助産技術の演習	演習	竹内・柴田・湯本・上原			
15	妊娠期の異常・ハイリスク妊娠の医学的管理	講義	木村			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 授業開始までに基礎看護学、母性看護学で学んだ内容（知識・技術）を十分に復習する。 約60分以上 毎回の授業内容にあたる教科書を読み、専門的な用語や正常値などを理解して講義に臨む。（適宜、授業始めに小テストを実施する） 約45分 グループワークでのディスカッションに臨めるように、紙面に考えをまとめる。終了後には加筆・修正を行い考えを深める。 約60分
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト： 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期，医学書院 最新産科学 正常編 改訂第22版，文光堂 最新産科学 異常編 改訂第22版，文光堂 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程，南江堂 産婦人科診療ガイドライン産科編2017，日本産婦人科学会 参考文献： 助産師基礎教育テキスト第4巻 妊娠期の診断とケア，日本看護協会出版会 助産師のためのフィジカルイグザミネーション，医学書院 写真でわかる助産技術，インターメディカ 母性看護学Ⅱ 周産期各論，医歯薬出版 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版，医歯薬出版
成績評価の方法・基準 助産過程の展開に関する記録内容やグループワークへの参加度 20％ 定期筆記試験 80％
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 小テストはその場で答え合わせをし、解説を行う。一旦回収してから返却する。 助産過程の記録はコメントし、後日返却する。 定期筆記試験は試験問題の返却はしない。
担当教員からのメッセージ ・前期単位取得が助産学実習Ⅰの履修要件となります。 ・助産過程の基本には、看護過程、基礎看護技術があります。助産師基礎教育は、看護師基礎教育の積み上げになるので、既習のものは必ず復習して臨んでください。 ・妊娠期の生理的な変化や正常な経過を理解することを土台とし、正常からの逸脱や妊娠期の異常・ハイリスク妊娠への理解につなげていきます。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
分娩期の診断とケア	912	前期	必修	2単位 60時間	講義 演習	月1-4 水1-4, 木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○上原明子（UEHARA, Akiko）、柴田眞理子（SHIBATA, Mariko）、湯本敦子（YUMOTO, Atuko）、竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
適宜調整します。事前にご一報ください。上原：akikouehara0823●gmail.com						
授業の概要						
産婦（胎児を含む）の健康状態及び分娩経過に関わる助産診断、産婦（胎児を含む）の援助技術を理解させ、産婦（胎児を含む）に対して適切な助産診断と分娩介助を含む助産技術を実践できる基礎的能力を養う。						
到達目標						
1. 分娩の4要素（産道、娩出物、娩出力、産婦の精神状態）と4要素への関連因子から、分娩機転を説明できる。 2. 模擬事例に対して、分娩期の診断に必要な情報収集、情報の解釈・分析・統合・診断、計画立案ができる。 具体的には以下を指す。 1) 分娩期の診断に必要な情報を問診、外診、内診を用いて収集できる。 2) 収集した情報を分析・解釈できる。 3) 上記1)-2)を統合し、以下（1）-(4)について助産診断できる。 （1）分娩開始の診断（2）現在の分娩時期の診断 （3）現在の分娩経過の診断（4）今後の分娩の経過予測 4) 上記1)-3)を根拠として、助産計画を立案できる。 3. 到達目標2を基盤としたシナリオシミュレーションの実践を通じて、助産過程を評価できる。 （5）助産計画の一部を実行できる。 （6）産婦・児・家族の反応から、助産実践を評価できる。 （7）助産過程を評価できる。 4. 分娩介助に必要な環境整備を実行できる。 1) 産婦の安全・安楽な環境整備 2) 清潔操作による分娩資器材の準備 3) 清潔操作による分娩野作成 4) 分娩介助に向けた効率的な資器材の配置 5. 仰臥位分娩介助を手順通りに実行できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連						
はじめに この科目では、母性看護学で学習した分娩に関する学習について更に深めていく。したがって、母性看護学概論、母性看護学援助論の知識があることが前提となる。また、母性看護学以外の知識として、特に、形態機能学、成人看護学の知識が必要となる。 この科目を受講するにあたり、前提となる科目 助産学概論、生殖の基礎科学、母子の心理・社会学、妊娠期の診断とケア この科目と並行して学習する科目 医療診断と医療処置、周産期ハイリスクケア論 この科目から後に続く科目 産褥期の診断とケア、乳幼児ケア論、助産学実習Ⅱ						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	※この授業は、3つのブロック（A, B, C）から成り立つ。 ※授業回数は、授業の進行を示すものではなく、あくまで回数だけの記載となる。 詳細については、授業初回のオリエンテーションで提示する。 <u>ブロックA 知識の学習（頭作り）</u> ●到達目標1. 分娩の4要素（産道、娩出物、娩出力、産婦の精神状態）と4要素への関連因子から、分娩機転を説明できる。 ●到達目標2. 模擬事例に対して、分娩期の診断に必要な情報収集、情報の解釈・分析・統合・診断、計画立案ができる。 オリエンテーション					

2	分娩機転（分娩第1期-分娩第4期）の反転授業		
3	初産婦の助産過程①：受け持ち開始時		
4	初産婦の助産過程②：分娩第1期前半		
5	初産婦の助産過程③：分娩第1期後半		
6	初産婦の助産過程④：分娩第2期		
7	経産婦の助産過程①：受け持ち開始時		
8	経産婦の助産過程②：分娩第1期		
9	経産婦の助産過程③：分娩第2期		
	ブロックB：技術の学習（手の動き）		
	●到達目標4. 分娩介助に必要な環境整備を実行できる。		
	●到達目標5. 仰臥位分娩介助を手順通りに実行できる。		
10	分娩に必要な環境整備・清潔操作		
11	清潔操作技術試験		
12-13	外陰部消毒・清潔野作成		
14	外陰部消毒・清潔野作成技術試験		
15-18	分娩介助技術		
19-20	分娩介助技術試験		
21-22	分娩終了直後の産婦へのケア・胎盤計測		
	ブロックC：統合学習（頭、手、心の準備学習）		
	●到達目標3. 到達目標2を基盤としたシナリオシミュレーションの実践を通じて、助産過程を評価できる。		
23	初産婦の助産過程①：受け持ち開始時の実際		
24	初産婦の助産過程②：分娩第1期前半の実際		
25	初産婦の助産過程③：分娩第1期後半の実際		
26	初産婦の助産過程④：分娩第2期の実際		
27	経産婦の助産過程①：受け持ち開始時の実際		
28	経産婦の助産過程②：分娩第1期の実際		
29	経産婦の助産過程③：分娩第2期の実際		
30	実習前OSCE：客観的臨床能力試験		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
全体を通じて、予習・復習の時間として少なくとも5時間が必要となる。具体的な予習・復習方法については、初回オリエンテーション時に提示する。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
荒木 勤『最新産科学 正常編 改訂第22版』・『最新産科学 異常編 改訂第22版』文光堂 町浦美智子『助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア』日本看護協会出版会 町浦美智子『助産学実習プレブック 助産過程の思考プロセス』医歯薬出版 北川眞理子『今日の助産マタニティサイクルの助産診断・実践過程改訂第3版』南江堂 横尾京子『助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期』医学書院			
成績評価の方法・基準			
総合点数100点満点における内訳は、以下のとおり。 ブロックA（配点53点） 評価基準：①反転授業前後の課題（6点）、②初産婦・経産婦の助産過程展開の課題（各1点：合計7点）、③学期末筆記試験（40点） 評価方法：①・②はチェックシートに基づく評価を行う。 ブロックB（配点20点） 評価基準：①清潔操作技術テスト（5点）、②外陰部消毒・分娩野作成技術テスト（5点）、③分娩介助技術テスト（10点） 評価方法：各チェックシートに基づく評価を行う。 ブロックC（配点27点） 評価基準：①シナリオシミュレーション前後の課題（各1点：合計7点）、②OSCE（客観的臨床能力試験）（20点） 評価方法：各チェックシートに基づく評価を行う。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
提出された課題に対して、教員から添削コメントを添える。 試験に対するフィードバックとして、チェックシートに対してコメントを添える。			
担当教員からのメッセージ			
私は恩師から、『助産師は3つの生命に対する責任がある』と習いました。すなわち、女性と子どもの生命、そして自分自身の職業生命が自分のスキルにかかっています。学生時代から、3つの生命に対する責任をどのように安全かつ安楽に提供していくのか、共に楽しく学び合いましょう。			

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
産褥期の診断とケア	913	前期	必修	1単位 30時間	演習	月1, 月2 月3 木1, 木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、柴田眞理子（SHIBATA, Mariko）、湯本敦子（YUMOTO, Atuko）、上原明子（UEHARA, Akiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後、教室で質問を受ける。またはメールにて適宜調整する。竹内：y-takeuchi●saku.ac.jp						
授業の概要						
褥婦（新生児を含む）の健康状態及び産褥経過に関わる助産診断、褥婦（新生児を含む）の援助技術を理解し、褥婦（新生児を含む）に対して適切な助産診断と助産技術を実践できる基礎的能力を養う。						
到達目標						
1. 産褥期（新生児を含む）の助産過程の展開ができる。 1) 産褥期（新生児を含む）の助産過程に必要な基礎的知識を理解し説明できる。 2) 産褥期（新生児を含む）の助産過程に必要な情報項目について説明できる。 3) 産褥期（新生児を含む）の助産診断に必要な情報を収集するための助産技術について理解し説明できる。 4) 産褥期（新生児を含む）の助産過程において、正常経過とその逸脱について、分析・解釈・統合し診断を考察することができる。 5) 産褥期（新生児を含む）の助産過程において、診断に基づき、計画・立案することができる。 2. 産褥期（新生児を含む）に必要な助産技術を、根拠に基づき事例を用いて実施できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連						
基礎領域全科目、妊娠期の診断とケア、分娩期の診断とケア、医療診断と医療処置、乳幼児ケア論、周産期ハイリスクケア論、親子関係発達とケア、母乳育児支援、地域母子保健論、助産管理、不妊症と不妊ケア						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	産褥期（新生児を含む）の助産技術の演習	演習	竹内・柴田・湯本・上原			
2	褥婦の生理（身体面・心理面）自己学習	講義	竹内			
3	新生児の生理（出生後24時間以内～生後1か月）自己学習	講義	竹内			
4	「褥婦の生理」自己学習の発表	講義	竹内			
5	「新生児の生理」自己学習の発表	講義	竹内			
6	産褥期（新生児を含む）の助産診断・助産技術の特徴	講義	竹内			
7	産褥期（新生児を含む）のフィジカルアセスメントと支援	講義	竹内			
8	産褥期（新生児を含む）のフィジカルアセスメントと支援	講義	竹内			
9	事例を用いての助産過程の展開	GW	竹内			
10	事例を用いての助産過程の展開	GW	竹内			
11	事例を用いての助産過程の展開	GW	竹内			
12	事例を用いての助産過程の展開	GW	竹内			
13	産褥期の健康教育の企画	GW	竹内			
14	産褥期の健康教育の企画	GW	竹内			
15	産褥期の健康教育の演習（ロールプレー）	GW	竹内			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業開始までに基礎看護学、母性看護学で学んだ内容（知識・技術）を十分に復習する。 約60分以上 毎回の授業内容にあたる教科書を読み、専門的な用語や正常値などを理解して講義に臨む。（適宜、授業始めに小テストを実施する） 約45分 グループワークでのディスカッションに臨めるように、紙面に考えをまとめる。終了後には加筆・修正を行い考えを深める。 約60分
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト： 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期，医学書院 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期，医学書院 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程，南江堂 最新産科学 正常編 改訂第22版，文光堂 最新産科学 異常編 改訂第22版，文光堂 産婦人科診療ガイドライン産科編2017，日本産婦人科学会 参考文献： 助産師基礎教育テキスト第6巻産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア，日本看護協会出版会 新生児学入門第4版，医学書院 助産師のためのフィジカルイグザミネーション，医学書院 写真でわかる助産技術，インターメディカ 写真でわかる母性看護技術，インターメディカ 母性看護学Ⅱ 周産期各論，医歯薬出版 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版，医歯薬出版
成績評価の方法・基準
助産過程の展開に関する記録内容や健康教育のグループワークへの参加度 20% 定期筆記試験 80%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小テストはその場で答え合わせをし、解説を行う。一旦回収してから返却する。 助産過程の記録はコメントし、後日返却する。 定期筆記試験の試験問題は返却しない。
担当教員からのメッセージ
・前期単位取得が助産学実習Ⅱの履修要件となります。 ・助産過程の基本には、看護過程、基礎看護技術があります。助産師基礎教育は、看護師基礎教育の積み上げになるので、既習のものは必ず復習して臨んでください。 ・褥婦と新生児の生理的な変化・正常な経過を理解することを土台とし、正常からの逸脱や産褥期・新生児期の異常への理解につなげていきます。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
医療診断と医療処置	914	前期	必修	1単位 15時間	講義	水1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小口 治（OGUCHI, Osamu）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
妊婦健診に必要な超音波診断の基礎的技術に基づいて理解させ、助産師が依頼や院内助産院等で活用する基礎的能力を養う。また、医師がいない場での応急処置としての会陰切開と局所麻酔、会陰縫合、緊急時の止血などができる基礎的技術を養う。						
到達目標						
1. 周産期における医療機器を用いた診断方法の目的、意義、方法を説明できる。 2. 分娩期の異常の病態整理、病態生理に基づく医学的管理を説明できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連						
関連科目：生殖の基礎科学、妊娠期の診断とケア、分娩期の診断とケア、産褥期の診断とケア、 周産期ハイリスクケア論、助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	1. 周産期における医療機器を用いた診断 1) 超音波診断・技術(超音波技術含む) 2) X線骨盤計測法（GMの見方） 3) CTG判読方法	講義	小口			
2	2. 産科手術 1) 吸引分娩術 2) 鉗子分娩術 3) 帝王切開術					
3	3. 分娩期における異常の医学的管理（1）産道の異常 1) 骨産道の異常（狭骨盤、広骨盤） 2) 軟産道の異常（軟産道強靱）					
4	4. 分娩期における異常の医学的管理（2）娩出力の異常 1) 微弱陣痛・過強陣痛 2) 子宮収縮薬の投与管理					
5-6	5. 分娩期における異常の医学的管理（3）胎児および胎児付属物の異常 1) CPD（巨大児含む） 2) 進入異常 3) 回旋異常 4) 胎児機能不全（CTG、急墜分娩含む） 5) 臍帯の異常 6) 胎盤の異常 7) 羊水の異常（非適時破水含む）					
7	6. 分娩期における異常の医学的管理（4）危機的産科出血 1) 弛緩出血、常位胎盤早期剥離、子宮破裂、羊水塞栓					
8	7. 分娩期における異常の医学的管理（5）分娩時母体損傷 1) 頸管裂傷・膣・会陰裂傷 2) 会陰裂傷・会陰切開と縫合技術及び裂傷に伴う止血技術					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
1. 予習：指定教科書の講義該当部分を事前に熟読の上、講義に参加すること。 2. 復習：講義内資料において、不明な点等については、必ず指定教科書を振り返ること。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
1. 梁 栄治『助産師と研修医のための超音波検査 改訂第2版』診断と治療社 2. 荒木 勤『最新産科学 異常編 改訂第22版』文光堂
成績評価の方法・基準
定期試験における筆記試験を成績評価対象とし、60%以上を単位取得として認める。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
初回授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
助産師国家試験においても、周産期における異常時の対応に関する設問が増加傾向です。常に臨床現場をイメージし、臨床で使える知識を着実に養っていきましょう。協働する医師から講義を受けることで、多職種が求める助産師像についても考察する機会としてみましょう。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
乳幼児ケア論	915	前期	必修	1単位 15時間	講義	金2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○橋本佳美（HASHIMOTO, Yoshimi） email：y-hashimoto●saku.ac.jp 研究室：5号館3階308						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則授業日の午後（12:10-12:50, 13:00-14:30）、研究室 その他の日は別途メールで相談						
授業の概要						
乳幼児の成長・発達とその評価、養育の方法を学び、子どもが健康に生活していくために必要な育児支援について理解する。また、病的状態で出生した子どもの観察とケアの状況を学び、異常の予測と緊急時の対処方法を理解する。						
到達目標						
1．早期新生児期の子どもの観察と必要なケアについて説明できる。 2．異常な状態で出生した子どものケアの方法を学ぶ。 3．低出生体重児の養護のポイントを上げることができる。 4．乳児健診、1歳半、3歳児健診のポイントを上げることができる。 5．乳幼児の養護と母親の持つ不安について説明できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連						
新生児の生理的な理解については、基礎領域の生殖の基礎科学、実践領域の妊娠期の診断とケア、分娩期の診断とケア、周産期ハイリスクケア論と関連します。 乳幼児と家族のケアについては、基礎領域の母子の心理・社会学、実践領域の親子関係発達とケアがこの科目に関連しています。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	新生児の生理とケア1（正常成熟新生児の出生後の生理的変化と養護） 母胎外生活への適応を助ける	講義	橋本			
2	新生児の生理とケア2 早期新生児期の観察ポイント	講義	橋本			
3	新生児の異常1（呼吸、循環、神経異常、外科的疾患） 新生児期の見られる異常とその対処 異常の早期発見とケア	講義	橋本			
4	新生児の異常2（低出生体重児の特徴とケア） 小さく生まれた子どもとその家族への援助	講義	橋本			
5	乳児前期の発達と健康診査 乳幼児の成長・発達の評価方法と視点	講義	橋本			
6	乳児期前期の発達の観察ポイントと母親の不安への対処 乳児後期の発達と健康診査 子どもの興味を外に引き出す援助	講義	橋本			
7	幼児期の発達と健康診査 1歳半、3歳児健診の観察ポイントと養育者への支援	講義	橋本			
8	まとめ	講義	橋本			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
予習 1. 授業開始時に授業の進め方を説明し、授業計画の詳細を提示しますので、授業に必要な部分はテキストを読んで出席してください。予習はおよそ30分程度の時間を要します。 2. 予習のためのワークシートを渡しますので、テキスト等を参考にして学修を進めてください。	復習 1. 各授業時に提示される目標を手掛かりに、授業のレジメ、資料を基に復習し、ノートに必要なことを整理してください。授業後その日のうちに復習する習慣をつけましょう。 2. 授業後に国家試験問題と課題をワークシートとして渡します。復習のための問題を解き、わからないところは調べましょう。復習には30分から1時間くらいの時間を要します。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
テキスト：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 医学書院 参考文献：講義時に提示する	
成績評価の方法・基準	
筆記試験 100% 筆記試験の問題は、毎週配付する国家試験の問題から主に出します。そのため、これを着実に説いていれば、試験は必ずできるはずです。	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
試験は成績発表が済み次第返却します。 毎週配付する国家試験の問題については、不明・疑問な点は質問に来てください。	
担当教員からのメッセージ	
乳幼児のケアという方向から母子の看護、助産師の役割について考えてみましょう。新生児から乳幼児までの国家試験の問題を解き、国家試験準備をしていきましょう。	

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
周産期ハイリスクケア論	916	前期	必修	1単位 15時間	講義	金4 金5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○石川智恵（ISHIKAWA, Chie）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後、教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
ハイリスク状態にある妊婦・産婦・褥婦と援助技術について理解し、ハイリスク状態にある妊産褥婦の健康状態のアセスメント及び援助技術を実践できる基礎的能力を養う。						
到達目標						
1．周産期医療の現状と助産師の業務範囲を理解し、助産師がハイリスクを学ぶ意義が説明できるようになる。 2．周産期各期のハイリスク状態に関する知識を養い、以下の能力が習得できる。 1) 正常とリスクの境界領域にある状態の観察とアセスメントができるようになる。 2) ハイリスク妊産婦へのケアができるようになる。 3) 医師への照会や搬送のための判断と対応について説明できるようになる。 4) 周産期各期の急変時の対応が説明できるようになる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連						
本科目と並行して関連する科目 基礎領域：生殖の基礎科学、母子の心理・社会学 実践領域：妊娠期の診断とケア、分娩期の診断とケア、産褥期の診断とケア、医療診断と医療処置、助産管理						
本科目から後に続く科目 実践領域：助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	ハイリスク妊娠とは： 法律における助産師の責任、助産師と医師の業務範囲の基準、 統計からみる動向等から、助産師がハイリスクを学ぶ意義を学ぶ。	講義	石川			
2	合併症を持つ妊産婦へのケア： 各合併症（心疾患、腎疾患、甲状腺疾患、糖尿病（妊娠糖尿病を含む）、子宮筋腫、 感染症）を持つ妊産婦へのケアについて学ぶ。					
3-4	異常妊娠、ハイリスク妊産婦へのケア： 正常妊娠からの逸脱症状のアセスメントと対応について学ぶ。 妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、切迫流・早産、頸管無力症、 前置胎盤のアセスメントとケアについて学ぶ。					
5-6	ハイリスク・異常分娩、ハイリスク産婦へのケア： 正常分娩からの逸脱症状のアセスメントと対応について学ぶ。 常位胎盤早期剥離、弛緩出血、子宮破裂、子宮内反症のアセスメントとケア について学ぶ。 産科手術および産科的医療処置に伴うケア： 帝王切開術、分娩誘発・促進法時のケアについて学ぶ。					
7-8	産科救急の対応： 子癇、羊水塞栓、異常出血、DIC のアセスメントと対応について学ぶ。					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
周産期各期の正常な経過について復習し、理解しておくこと。 授業範囲を予習して授業に臨むこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 医学書院 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 医学書院 参考文献：病気がみえる Vol.10 産科 メディックメディア
成績評価の方法・基準
筆記試験（100％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
初回授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
近年の周産期医療の動向やハイリスク妊産婦の増加から、助産師には、正常と異常に対応できるための高い助産実践能力を持ち、正常な経過であれば自律的にケアを実践し、正常からの逸脱時には医師を初めとする関連職種と協働することが求められています。そのためには、正常と異常の判断能力、正常からの逸脱時に医師への照会や搬送に必要なリスク診断、急変時の対応能力を身につける必要があります。正常な経過だけでなく、ハイリスクや異常な経過についての知識も習得してほしいと考えます。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
親子関係発達とケア	917	前期	必修	1単位 15時間	講義	水3, 水4 金3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、澁澤美穂子（SHIBUSAWA, Mihoko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
研究室（5号館3階301）在室時に調整する。						
授業の概要						
現代社会の中で起きている親子の問題を親子関係の発達という視点から捉え、この問題に対して子どもと家族の誕生に立ち会う助産師ができる親子関係発達への支援の在り方と方法を検討する。						
到達目標						
1．親子関係、家族関係の発達理論について説明できる。 2．親子関係、家族関係の発達に影響を与える要因を説明できる。 3．親子関係、家族関係の発達に影響を与えている要因に対する支援について説明できる。 4．NICUにおける親子関係、家族関係の発達と支援について説明できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連						
母子保健分野、母子の心理・社会学、家族発達支援、地域社会の現状と合わせて学ぶ。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	授業の進め方 オリエンテーション			講義	湯本	
2	家族、親子の現状と課題 1 夫婦、親子関係、母子、父子関係の成立			講義	湯本	
3	家族・親子の現状と課題 2 医療の発達と家族、親子関係の多様性			講義	湯本	
4	NICU見学			講義・演習	澁澤	
5	親子関係に影響を及ぼす問題と支援			講義・演習	澁澤	
6	親子関係に影響を及ぼす問題と支援			講義・演習	澁澤	
7・8	DVD “うまれる” 視聴			講義・演習	湯本	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
現場での実践可能な支援について、自分の経験や体験と重ね合わせて各自が考えられるように新聞、雑誌、書籍などを読むこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：基礎助産学[1] 助産学概論 医学書院 基礎助産学[4] 母子の心理・社会学 医学書院 そ の 他：非配偶者間人工授精で生まれた人の自助グループ・長沖暁子編著（2014）, AID で生まれるということ 萬書房 参考文献：授業内で適宜紹介する						

成績評価の方法・基準
課題レポート（100％） 初回に指示します。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
必要時面談を行います。
担当教員からのメッセージ
現代社会の中で親子の抱えている事項に関心を持ち、自分なりの考えを深める学びを心掛けること。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
母乳育児支援	918	前期	必修	1単位 15時間	講義	月3, 月4 木3
担当教員（○印＝科目責任教員） ○上原明子（UEHARA, Akiko）、黒澤かおり（KUROSAWA, Kaori）、片岡啓子（KATAOKA, Keiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 適宜調整します。事前にご一報ください。上原：akikouehara0823●gmail.com						
授業の概要 母乳育児が重要であることの意義、母乳育児を望む母親達全員が希望を叶えられるような、母乳確立を目指すために必要な支援とケアのエビデンス、母乳育児確立を目指す支援システムを理解させ、適切な方法で母乳育児支援を実践できる基礎的能力を養う。						
到達目標 1. 母乳分泌の科学的メカニズムを説明できる。 2. 各話題提供および各自選択した文献を通じて、授乳支援における助産師のあり方について深慮することができる。 3. プレゼンテーションを通じて、授乳支援に対する自分の考察を論理的に表現できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連 <u>この科目の前提となる科目</u> 助産学概論、ウイメンズヘルス、妊娠期の診断とケア、分娩期の診断とケア <u>この科目と並列して学習する科目</u> 産褥期の診断とケア、周産期ハイリスクケア論 <u>この科目から後に続く科目</u> 助産管理、助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション			講義	上原	
2・3	話題提供1. 授乳支援に関する世界的動向			講義 講義 講義・演習 講義 演習	黒澤	
4	話題提供2. 母乳分泌のメカニズムと母乳育児支援の基本の「き」				特別講師	
5・6	話題提供3. 病棟・NICUにおける授乳支援の実際				片岡	
7	話題提供4. 助産所における授乳支援の実際①②				特別講師	
8	話題提供5. 授乳をする母親の声				上原	
	プレゼンテーション発表・討議					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 各話題提供に対するレポート課題作成に各60分程度が必要となる。 また、最終のプレゼンテーション発表への準備として、約60分程度が必要となる。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 NP0日本ラクテーション・コンサルタント協会『母乳育児支援スタンダード 第2版』医学書院。 本郷寛子、他『母乳育児支援コミュニケーション術－お母さんも支援者も自信がつく』南山堂。						

成績評価の方法・基準	
成績評価は、授業への出席が2/3以上の場合に行う。 成績評価の方法・基準は、以下のとおり。	
1. 話題提供1-5に対する各レポート課題	50%（レポート評価基準に基づき評価、別途配布）
2. プレゼンテーション	30%（プレゼンテーション評価基準に基づき評価、別途配布）
3. 学期末筆記試験	20%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
各レポート課題やプレゼンテーションに対して、教員から添削コメントを添える。	
担当教員からのメッセージ	
母乳育児の利点が広く認識される一方で、多くの女性たち母乳育児で悩み、辛い思いをしていることが明らかになっています。授乳をする女性、そして子どもにとって何が重要なのか。各話題提供を通じて、授乳支援に対する自分自身の価値観を揺さぶり、助産師による授乳支援のあり方について深く考察してほしいと願っています。	

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
地域母子保健論	919	通年	必修	1単位 15時間	講義	月1, 火1 金1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○柴田眞理子（SHIBATA, Mariko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
・授業終了後、教室で質問を受ける。 ・随時、メール（m-shibata●saku.ac.jp）で質問を受ける。						
授業の概要						
地域母子保健の目指すものとその仕組み、地域母子保健を推進する社会資源の活用、地域母子保健の展開について理解し、地域でくらす母子の健康問題に適切に対処できる基礎的能力を養う。						
到達目標						
1. 地域母子保健活動の目的・意義を述べることができる。 2. 地域母子保健体系を述べることができる。 3. 母子保健指標の動向を説明できる。 4. 個人・家族・地域の育児力を高めるための地域母子保健の支援方法を説明できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連						
・母子保健政策を具体的に思考するための基本科目である。 ・助産学実習Ⅰ～Ⅲにおける対象への支援に活用するものである。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	地域母子保健の目的と意義、母子保健統計の動向と課題	講義	柴田			
2	母子保健行政の体系、法律・制度・施策 1	講義	柴田			
3	母子保健行政の体系、法律・制度・施策 2	講義	柴田			
4	佐久市における母子保健施策	講義	特別講師			
5	佐久市における母子保健事業の実際	見学演習	特別講師			
6	地域母子保健の健康課題とその対策①	講義	柴田			
7	地域母子保健の健康課題とその対策②	講義・演習	柴田			
8	まとめ	講義・演習	柴田			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
・準備学習課題を課します。（1時間） ・グループワークのテーマを中心に母子の健康課題の解決策を考えるため、事前にテーマに関する自己の考えをまとめてディスカッションに参加する。（1～2時間）						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 わが国の母子保健 平成30年版 母子衛生研究会 参 考 書：国民衛生の動向2016～2017 保健衛生ニュース
成績評価の方法・基準
・筆記試験 50% ・準備学習課題 10% ・演習レポート 10% ・グループワークの展開 30%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・試験後、解説を行うが返却はしない。 ・レポートは採点后コメントを付けて返却する。 ・グループワークの成果はプレゼンテーションの場でコメントする。
担当教員からのメッセージ
母子の生活の拠点は地域であり、最も長時間・長期間過ごす所です。そういう意味で母子の健康は地域に大きく影響されているといえます。現代の母子が健康で生活のQOLを維持し高めるためには、どのような施策が必要なのかを考えてほしいと思います。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
助産管理	920	前期	必修	2単位 30時間	講義	火1-5 木2 金3-4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、 清水久美子（SHIMIZU, Kumiko）、小原真理子（OHARA, Mariko）、中村友彦（NAKAMURA, Tomohiko）、 黒澤かおり（KUROSAWA, Kaori）、保谷ハルエ（HOYA, Harue）、柳沢明子（YANAGISAWA, Akiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に質問を受ける。 非常勤講師との仲立ちは、科目責任教員が行う。						
授業の概要						
助産管理の基本概念、助産業務に関連する法規、周産期医療システムの運用と地域連携、病院・助産所など、助産の 行われる場における管理、周産期の医療事故や災害発生と助産業務など助産師の危機管理について理解し、助産管理 を実践できる基礎的能力を養う。						
到達目標						
1．助産管理の基礎的概念について説明できる。 2．助産師の危機管理について説明できる。 3．周産期医療システムの運用と地域連携について説明できる。 4．助産の行われる場の管理について説明できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連						
助産師の役割を経験豊富な講師から学び、自身の助産師像を考える参考にする。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	助産管理の基本概念	講義	湯本			
2	病院内の助産管理	講義	清水			
3	サービスの評価とリスクマネジメント	講義	清水			
4	医療事故と助産師	講義	清水			
5-6	周産期医療システムの運用と地域連携	講義	中村			
7-8	地域開業助産師の業務管理	講義	柳沢			
9-10	母子保健における災害看護の視点（災害発生時における分娩対応、避難所生活に おける母子支援活動、要配慮者である母子に起きやすい健康問題と対応）	講義	小原			
11-12	公的助産院の業務管理（ガイドライン含む）	講義	黒澤			
13-14	私立開業助産師の業務管理（ガイドライン含む）	講義	保谷			
15	病院産婦人科外来、助産師外来の業務管理	講義	竹内			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
助産師の置かれている環境を自分なりに調べて学ぶ時間を作る。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：助産学講座 10 助産管理 医学書院 助産師業務要覧 第3版 基礎編、実践編、アドバンス編 日本看護協会出版会 参考文献：授業中に示す
成績評価の方法・基準
筆記試験（80％） レポート（10％） 授業参加状況（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
必要により面談する。
担当教員からのメッセージ
助産師の活躍の場の広がりを理解する。さまざまな助産師像を学ぶ。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
助産学実習Ⅰ（妊娠期）	931	後期	必修	1単位 45時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）		オフィスアワー／連絡先と連絡方法				
○竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi） 柴田真理子（SHIBATA, Mariko） 湯本敦子（YUMOTO, Atsuko） 上原明子（UEHARA, Akiko）		各施設の実習担当教員と密に連絡をとる 必要時、メールにて調整 竹内：y-takeuchi@saku.ac.jp				
授業の概要						
妊婦の健康診査と保健指導を实践できる能力、妊婦の健康診査結果、異常への逸脱徴候について助言を得て判断できる能力など、妊婦とその家族に対する助産診断および援助技術を習得する。						
到達目標						
1. 妊娠期の健康診査を理解し、一部実施できる。 2. 妊娠期に行われている保健指導の内容とその方法を理解し、一部実施できる。 3. 継続事例の妊婦について、助産過程を展開できる。 4. 外来実習を通じて、助産実践における倫理的課題・問題を把握し、考察できる。 5. 外来実習を通じて、母子保健医療チームにおける助産師の役割、他職種および地域との連携・調整について考察できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連						
妊娠期の診断とケア、分娩期の診断とケア、産褥期の診断とケア、医療診断と医療処置、周産期ハイリスクケア論、不妊症と不妊ケア						
授業計画						
○実習方法 1. 継続事例を1例受け持ち、妊娠期の助産過程の展開を行う。 ＊詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
・実習に向け、事前に前期授業の知識・技術の確認が必要になる。 ・【妊娠期・分娩期・産褥期の診断とケア】における、全ての講義・演習内容は確実に習得して実習に臨むこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等		成績評価の方法・基準				
授業のテキスト・参考書に準じる		実習要項に記載する方法・基準による				
課題に対するフィードバックの方法						
記録類に関しては、その都度コメントを記入していく。詳細は実習要項を参照。						
担当教員からのメッセージ						
・前期履修科目の単位取得が「助産学実習Ⅰ」の履修要件となります。 ・一人の対象を妊娠期から分娩期、産後1か月まで継続して受け持ちます。その意味を考えながら、前期から学修を積み重ねていくことを期待します。 ・健康管理に留意し、医療チームの一員として、必要な報告・連絡・相談は適宜、臨床指導者や教員に行うなど、責任ある行動をとることができるように実習に臨んでください。						

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
助産学実習Ⅱ（助産・継続ケア）	932	通年	必修	8単位 360時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）		オフィスアワー／連絡先と連絡方法				
○上原明子（UEHARA, Akiko） 柴田眞理子（SHIBATA, Mariko） 湯本敦子（YUMOTO, Atsuko） 竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）		適宜調整します。事前にご一報ください。 上原：akikouehara0823●gmail.com				
授業の概要 産婦（胎児を含む）の健康診査と助産診断、産婦ケア及び分娩介助の技術を実践できる能力、異常への逸脱の判断および救急時の対処方法が指導助言のもとにできる能力など、産婦（胎児を含む）とその家族に対する助産診断および援助技術、分娩介助技術を習得させる。						
到達目標 1. 分娩期の助産過程を展開できる。 2. 継続事例1例を通じて、産褥期の助産過程を展開できる。 3. 継続事例1例を通じて、新生児の助産過程を展開できる。 4. 新生児蘇生法「専門」コースの受講を通じて、異常時における助産師の対応について記述できる。 5. 母子保健医療チームにおける助産師の役割および多職種との連携・調整について記述できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連 <u>本科目を受講するにあたり、前提となる科目</u> 前期開講科目全て 特に分娩期の診断とケア、医療診断と医療処置における学習は、実習における実践に直結する。 <u>本科目と並行して関連する科目</u> 助産学実習Ⅰ・Ⅲ <u>本科目から後に続く科目</u> 助産学実習Ⅳ、母子保健政策論（後期開講分）						
授業計画 ○実習方法 1. ローリスク分娩介助10例程度を通じて、分娩第1期から分娩第4期までの、分娩介助を含む助産過程の展開を行う。 2. 上記1のうち、1例を助産学実習Ⅰからの継続事例とし、産褥期・新生児期の助産過程の展開を行う。 3. 一般社団法人日本周産期・新生児医学会公認の新生児蘇生法「専門(A)」コースの受講を通じて、新生児蘇生に必要な基本的知識および技術を学習する。 * 詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 新生児蘇生法「専門」コース受講に際しては、事前に60分程度の事前学習が必要となる。 病棟実習においては、土日祝日、夜間を含む実習を行う。実習時間の調整については、各施設の担当教員が行う。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等		成績評価の方法・基準				
細野茂春『日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生テキスト第3版』メジカルビュー社		実習要項に記載する方法・基準による				
課題に対するフィードバックの方法 実習要項参照						
担当教員からのメッセージ 助産学実習Ⅱは、前期の学習で培った力を臨床現場で最大限実践していく科目です。分娩は、決められた時期・時間にあるものではありません。昼夜問わず産婦（胎児）、褥婦、新生児のケアを行います。健康管理に十分注意し、自律した行動の訓練を入学時から心がけてください。						

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
助産学実習Ⅲ（ハイリスク母子のケア）	933	後期	必修	1単位 45時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員） ○竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi） 柴田真理子（SHIBATA, Mariko） 湯本敦子（YUMOTO, Atsuko） 上原明子（UEHARA, Akiko）		オフィスアワー／連絡先と連絡方法 各施設の実習担当教員と密に連絡をとる 必要時、メールにて調整 竹内：y-takeuchi○saku.ac.jp				
授業の概要 ハイリスク状態にある妊産褥婦と新生児に対する健康状態をアセスメントし、アセスメントした結果に基づいてハイリスクの妊産褥婦と新生児に望ましいケアを、助言を受けながら実践できる基礎的能力を養う。						
到達目標 1. ハイリスク状態にある妊産褥婦と新生児について、助産過程を展開できる。 2. 病棟実習を通じて、助産実践における倫理的課題・問題を把握し、考察できる。 3. 病棟実習を通じて、母子保健医療チームにおける助産師の役割、他職種および地域との連携・調整について考察できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連 周産期ハイリスクケア論、妊娠期・分娩期・産褥期の診断とケアにおける全ての講義・演習内容は確実に習得して実習に臨むこと。						
授業計画 ○実習方法 ハイリスク状態にある妊産褥婦と新生児を1例受け持ち、助産過程を展開する。 ＊詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・実習に向け、事前に前期授業の知識・技術の確認が必要になる。 ・【周産期ハイリスクケア論】、【妊娠期・分娩期・産褥期の診断とケア】における全ての講義・演習内容は確実に習得して実習に臨むこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 授業のテキスト・参考書に準じる		成績評価の方法・基準 実習要項に記載する方法・基準による				
課題に対するフィードバックの方法 記録類に関しては、その都度コメントを記入していく。詳細は実習要項を参照。						
担当教員からのメッセージ ・前期履修科目の単位取得が「助産学実習Ⅲ」の履修要件となります。 ・主体的な学習を積み上げていけるように前期から意識して取り組んでください。 ・健康管理に留意し、医療チームの一員として、必要な報告・連絡・相談は適宜、臨床指導者や教員に行うなど、責任ある行動をとることができるよう実習に臨んでください。						

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
助産学実習Ⅳ（地域における母子保健活動）	934	通年	必修	1単位 45時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）		オフィスアワー／連絡先と連絡方法				
○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko） 柴田真理子（SHIBATA, Mariko） 竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi） 上原明子（UEHARA, Akiko）		適宜調整します。				
授業の概要 開業助産所の活動内容と助産所管理、地域における助産・母子保健活動ネットワークなど、地域における助産・母子保健活動の実際を知り、助産業務を担う専門職の役割を理解、認識させる。						
到達目標 1. 医療施設における助産業務の実際を確認できる。 2. 助産所における助産業務管理の実際を確認できる。 3. 助産所の活動内容について、地域における機能と役割を確認できる。 4. 母子保健活動分野における助産師の役割および多職種との連携・調整について記述できる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連 <u>本科目を受講するにあたり、前提となる科目</u> 前期開講科目全て 特に助産学概論、地域母子保健論（前期開講分）、助産管理、母子保健政策論（前期開講分）は実習内容に直結する。 <u>本科目と並行して関連する科目</u> 助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ <u>本科目から後に続く科目</u> 地域母子保健論（後期開講分）、母子保健政策論（後期開講分）						
授業計画 ○実習方法 1. 医療施設における助産業務の実際を実習を通じて確認する。 2. 助産所における助産業務の実際を実習を通じて確認する。 ＊詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 レポートの準備等が必要となる。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等		成績評価の方法・基準				
なし		実習要項に記載する方法・基準による				
課題に対するフィードバックの方法 実習要項参照						
担当教員からのメッセージ 助産学実習Ⅳでは、助産管理に焦点をあて、病院における助産管理と助産所における助産管理の相違を学びます。組織や地域社会の中での助産師の役割や多職種との連携・協働について考察していきましょう。						

2018

シラバス〔関連領域〕

佐久大学別科助産専攻

【関連領域】

授業科目名	授業科目 コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
国際化と助産師	941	前期	選択	1単位 15時間	講義	木2, 木3 金5
担当教員（○印＝科目責任教員） ○上原明子（UEHARA, Akiko）、小原真理子（OHARA, Mariko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 適宜調整します。事前にご一報ください。上原：akikouehara0823●gmail.com						
授業の概要 現在の世界における助産・母子保健のニーズ、日本における助産・母子保健に係る国際化の現状と課題、助産師の国際活動の実践について理解させ、国際社会に対応できる助産師としての基礎的能力を養う。						
到達目標 1. 各話題提供および文献を基盤として、助産師としての自分の役割を論理的に記述できる。 2. 作成したレポートを効果的にプレゼンテーションできる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連 <u>この科目を受講するにあたり、前提となる科目</u> 助産学概論 <u>この科目から後に続く科目</u> 地域母子保健論、助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
	到達目標1 各話題提供および文献を基盤として、助産師としての自分の役割を論理的に記述できる。					
1	オリエンテーション 1) この授業での学習方法 2) 話題提供1. 国際社会における母子保健のニーズ 3) レポート課題の決定				講義	上原
2	レポート課題に必要な文献検索				演習	上原
3	話題提供2. 在日外国人支援活動（当事者活動、支援者活動） 『在日外国人としての当事者、そして支援者の立場から』 『言語支援者の立場から』				講義	特別講師
4	話題提供3. 国際協力および在日外国人支援における母子保健活動（支援者活動） 『助産師としての活動 in ネパールそして佐久』				講義	特別講師
5	話題提供4. JICA母子保健活動の実践（予定・変更の可能性あり） ※佐久大学が受け入れるJICA母子保健研修生との交流を予定				講義	上原 他
6	話題提供5. 国際協力における母子保健活動（支援者活動） 『イラン難民キャンプ、バングラディッシュ災害多発地域における母子保健実践活動上のアセスメント』				講義	小原
7	レポート・プレゼンテーション資料の作成				演習	上原

8	到達目標2 作成したレポートを効果的にプレゼンテーションできる。 プレゼンテーション発表	演習	上原
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 各話題提供に対するレポート課題作成に各60分程度が必要となる。また、最終のプレゼンテーション発表への準備として、約60分程度が必要となる。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 我部山キヨ子『助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健』医学書院			
成績評価の方法・基準 最終試験はありません。成績評価は、授業への出席が2/3以上の場合に行います。 成績評価の方法・基準は、以下のとおり。 1. 話題提供1-5に対する各レポート課題 50%（レポート評価基準に基づき評価、別途配布） 2. プレゼンテーション 50%（プレゼンテーション評価基準に基づき評価、別途配布）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 各レポート課題やプレゼンテーションに対して、教員から添削コメントを添える。			
担当教員からのメッセージ この科目では、国際社会で様々な立場から支援を行っている方々に医療に関わる話題提供していただきます。各話題提供を通じて、国際社会で働く助産師として必要なことを考察する場として活用していただけたら嬉しいです。			

【関連領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
不妊症と不妊ケア	942	前期	選択	1単位 15時間	講義	木3 木4
担当教員（○印＝科目責任教員） ○柴田眞理子（SHIBATA, Mariko）、宮澤香代子（MIYAZAWA, Kayoko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 ・授業終了後、教室で質問を受ける。 ・随時、メール（m-shibata●saku.ac.jp）で質問を受ける。						
授業の概要 不妊症・不育症の定義・検査・治療、特に生殖補助医療と不妊症の女性の心理、不妊カウンセリングの内容と特性、資格等について理解し、不妊症に悩む人へのケアを実践できる基礎的能力を養う。						
到達目標 1. 不妊の実態とその帰結を説明できる。 2. 不妊当事者の心理過程を知り、治療者への看護・支援が説明できる。 3. 生殖補助医療技術の原理と方法を説明できる。 4. 生殖補助医療の倫理上の問題を討議し、自己の考えを整理することができる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連 ・「生殖の基礎科学」、「ウイメンズヘルス」の不妊および不育症の医学的知識がもとなる。 ・不妊症と診断された人への対応の実践を学び、「ウイメンズヘルス」の成熟期女性への支援に応用するものである。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション 課題学習の進め方について			講義	柴田	
2	不妊の定義や診断方法、高度生殖補助医療について述べることができる			講義	柴田	
3	出生前診断の種類と倫理的問題について説明できる			講義	柴田	
4	不妊治療を受ける対象の相談の現状と看護ケアの実際（1）			講義	宮澤	
5	不妊治療を受ける対象の相談の現状と看護ケアの実際（2）			講義	宮澤	
6	不妊をめぐる課題学習を通して倫理的態度を持てるようになる			GW	柴田	
7	不妊をめぐる課題学習を通して倫理的態度を持てるようになる			GW	柴田	
8	課題学習のプレゼンテーションを通して、他者の意見を共有できる			講義／GW	柴田	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・ 次回の授業項目のキーワードを教科書を読んでノートに整理する。（講義は予習をもとにすすめる。講義終了時に再度理解度を確認する。） 約45分 ・ 課題学習時は文献を精読し、疑問点を整理し、デスカッションに臨めるよう紙面に準備する。 約60分						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
テキスト：助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎医学 医学書院	
成績評価の方法・基準	
・ レポート	40%
・ 課題GWプレゼン資料	40%
・ グループ討議への参加度	20%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
・ 提出レポート：評価後コメントし、返却する。 ・ GWの課題レポート：プレゼン終了後、コメントする。	
担当教員からのメッセージ	
女性の結婚・出産年齢が高くなっている昨今、不妊という二文字を考慮する人は少なからずおられます。そのような方々に寄り添い、求めている情報を提供できることは助産師にとって重要な役割になります。自らの価値観に縛られることなく最新の知識を客観的に身につけてほしいと思います。	

【関連領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
母子保健政策論	943	通年	選択	1単位 15時間	講義	火1, 水1 木1, 木2
担当教員（○印＝科目責任教員） ○柴田眞理子（SHIBATA, Mariko）、湯本敦子（YUMOTO, Atuko）、竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、 上原明子（UEHARA, Akiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 ・授業終了後、教室で質問を受ける。 ・随時、メールで質問を受ける。 柴田：m-shibata●saku.ac.jp 湯本：a-yumoto●saku.ac.jp 竹内：y-takeuchi●saku.ac.jp 上原：akikouehara0823●gmail.com						
授業の概要 母子をめぐる社会制度、母子保健施策及び母子保健統計について理解した上で母子保健の課題を認識し、助産業務に活かせる能力を養う。						
到達目標 1. 母子保健の観点から実習での継続事例や受け持ち事例へのケアを研究的にまとめることができる。 1) テーマを設定できる。 2) 事例の妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過を簡潔に述べることができる。 3) 助産過程の展開をテーマに絞ってまとめることができる。 4) 文献や理論、制度を活用し得られた結果や反応の意味を明確にできる。 2. 作成したレポートをプレゼンテーションすることができる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連 ・助産学実習Ⅰ～Ⅳで対象に実践した助産ケアに立脚して展開する。 ・妊娠期の診断とケア、分娩期の診断とケア、産褥期の診断とケアの助産技術がケア実践のもとになる。 ・思春期教育論の文献検索、レポート作成（PCの使用）を活用するものである。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション 実践したケアをレポートにする意義について			講義	柴田	
2	レポート作成方法 事例研究を読んでみよう！ 以降は実習指導教員の指導のもと、各自で計画的に進めることができる。			講義	柴田	
3	個人学習：事例レポートのテーマの明確化（文献活用）			講義	柴田 他	
4	個人学習：事例紹介と助産の実践・評価			講義	柴田 他	
5	個人学習：考察（文献活用）			講義	柴田 他	
6	個人学習：発表資料の作成			講義	柴田 他	
7	事例レポート発表			講義	柴田 他	
8	事例レポート発表			講義	柴田 他	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・各回での準備課題を提示してあります。指導教員と事前にアポイントをとり、指導を受けられるよう準備してください。（2～3時間） ・講義後は指導箇所を文献等を用い、修正・加筆してください。（2～3時間）						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
参考文献：看護における研究 南裕子編 日本看護協会出版会 2008年	
成績評価の方法・基準	
①最終提出事例レポート	70%
②準備学習課題への取り組み	20%
③プレゼンテーション	10%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
・事前課題：その都度ディスカッションと添削し、返却 ・最終提出事例研究レポート：プレゼンテーションの席上でコメントと評価（返却せず）	
担当教員からのメッセージ	
自らが実施した助産を客観的に評価してみることは、根拠ある実践をするうえでとても意義があることだと思います。また、文献を活用して思考すること、ディスカッションをとおして思考することの訓練もしてみてください。	

【関連領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
思春期教育論	944	前期	選択	1 単位 30 時間	演習	金 1 金 2
担当教員（○印＝科目責任教員） ○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、上原明子（UEHARA, Akiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業終了後、教室で質問を受ける。						
授業の概要 思春期の特徴と健康課題、性教育の歴史、ピアカウンセリングの方法論について理解し、ピアカウンセリングを通して、性教育の進め方について理解する。						
到達目標 1. 思春期の特徴と生（性）の健康課題について理解できる。 2. 人に伝えるための表現力を実行することができる。 3. ピアカウンセリングについて理解し出前講座で活用できる。 4. 学習で得た知識を用いて性教育を計画・実施・評価ができる。 5. 集団指導を実施することができる。						
当該授業科目と他の授業科目との関連 ウイメンズヘルス等、他の授業科目も参考にして自らの考え方の幅を広げる。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	授業の進め方 オリエンテーション、思春期の生（性）			講義	湯本	
2	人に伝える技 その1：文章の書き方			講義	上原	
3	人に伝える技 その2：文献の使い方			講義	特別講師	
4	人に伝える技 その3：Microsoft Officeを極める ―Word編―			講義	特別講師	
5	人に伝える技 その4：Microsoft Officeを極める ―Power Point編―			講義	特別講師	
6	助産師が行うライフサポートセミナーの実際（長野県の現状を知る）			講義	特別講師	
7	ピアカウンセリングを知り、思春期教育に活かす			講義	湯本	
8	出前講座性教育の準備（設計と指導案作り）			演習	湯本 竹内 上原	
9	出前講座性教育の準備（設計と指導案作り）			演習		
10	出前講座性教育の準備（設計と指導案作り）			演習		
11	出前講座性教育の準備（設計と指導案作り）			演習		
12	出前講座性教育の準備、リハーサル			演習		
13	出前講座性教育の実際			演習		
14	出前講座性教育の実際			演習		
15	性教育（命の教育）まとめ			講義・演習		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 自己の受けてきた思春期教育、性教育、命の教育等を振り返り、不足と思われる部分を補い、指導の実際に活かす準備をする。各自、出前講座性教育で同世代に伝えたいことを理解し、実際に活かす。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
授業の中でも紹介するが、学生同士互いに紹介し合う。
成績評価の方法・基準
授業参加状況（100％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
コミュニケーションをとりながら共に考える。
担当教員からのメッセージ
同世代の学生に性教育（命の教育）の出前授業を行います。思春期教育の幅広い学びを期待します。 少子化時代の問題点が探れることを願います。